

# 水野けんいち レポート

## KENICHI MIZUNO REPORT

〈Vol.44〉

発行所／佐倉市王子台1-14-4

TEL. 043-463-2400

FAX. 043-463-0475

E-mail:office@mizunokenichi.com

# 救急医療の充実を

## 救急医療機関の一覧リスト付き

### 保存版

# 千葉県でも急患の“たらい回し”が深刻になる中で水野賢一衆議院議員に聞いた

### Q1 救急医療が崩壊しつつあるという危惧もありますが。

**水野**

病院は近くにあるのに「ベッドが空いていない」「専門医がいない」ということで受け入れを拒否される「たらい回し」の事例が頻発しています。とりわけこの問題は首都圏で深刻になっています。医療機関の数が多いために、かえって他の病院任せにしがちな面

もあります。

08年には東京都で静脈瘤破裂の40歳代の男性が救急車で運ばれた時、48回受け入れを拒否され49回目の照会でやっと受け入れ先が見つかったという例がありましたが、これでは救急医療とはいえません。

### 受け入れの最多拒否回数

救急車からの受け入れ拒否の最多回数を都道府県ごとに比較すると大都市圏でたらい回しが相次いでいることが分かる。

※08年の重症以上の人の場合  
消防庁データより作成

①東京都	48回
②神奈川県	41回
③大阪府	32回
④埼玉県	30回
⑤千葉県	25回

### 受け入れまでの時間（全国平均）

急病や怪我の連絡を受けてから救急車が現場に到着し医療機関に収容するまでの時間は、年々伸びてきている。

1990年	21.7分
2000年	27.8分
2007年	33.4分

（総務省消防庁データより）

### Q2 対策としてどのようなことが必要ですか？

**水野**

根本的には医師や救急病院の数が不足しているという問題があります。ただ医師の養成には10年くらい掛かるので、まずは即効性のある対策も取らなければなりません。

一つには現在は空きベッドの情報が救急車側にリアルタイムに伝わっていないという問題があります。病院は厚生労働省、救急車は消防庁の所管

ですが、縦割りを打破してきちんと情報共有できる仕組みを作ります。

また医師が過酷な救急医療の現場を敬遠する傾向もあるので、この分野には手厚い支援を行ない必要な医師数を確保すべきです。これらの施策によって救急車の「たらい回しゼロ」を目指します。